地歴公民(政経)　　早稲田大学　法学部　1/2

＜全体分析＞

試験時間 60 分

解答形式

記述式(16)、選択式(24)、論述式(２問／100 字以内・100 字以内)

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

大問数は昨年度と同じ全４題。解答数は 42 で、昨年度から１減った。昨年度に比べ、記述式の設問が同数で、選択式の設問が１減った。論述式問題の出題数は昨年度と同じであるが、２問とも 100 字以内の指定であった。

出題の特徴や昨年との変更点

ここ数年は、記述式問題に比べて選択式問題が多く、また、100 字～200 字程度の論述問題が出題されている。また、政治分野の大問が２題、経済分野の大問が１題という傾向が定着している。

その他トピックス

需要の価格弾力性と収入の関係など経済に関する掘り下げた理解を試す問題が出題された。

最高裁判所の最近の違憲判決の内容やＵＮＲＷＡへの資金供給などの時事問題が出題された。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
Ⅰ	記述 選択	【政治分野】 信教の自由	信教の自由に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問６は最高裁判所が津地鎮祭訴訟で採用した判断基準に関するやや細かい知識が問われている。	易
Ⅱ	記述 選択 論述	【政治分野】 法と司法	司法に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問２と問７は、典型的な論点が問われており、論述に困難はない。問３は近年の最高裁判所の違憲判決が問われており、やや難しい。	やや易
Ⅲ	記述 選択	【経済分野】 市場経済	市場経済、貿易、金融政策に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問５は豊作貧乏についての理解を問う設問であり、やや難しい。価格弾力性に関する問題は昨年に続いて出題された。	やや易
Ⅳ	記述 選択	【国際問題】 国際紛争と国連	ロシアのウクライナ侵略に関連して国際政治に関する知識を問う設問を中心とした構成。問２ではウクライナが国連の原加盟国であること、問５ではコソボが国連に加盟していないこと、問７ではＵＮＲＷＡへの資金供給という細かい知識が問われている。なお、問２の４の選択肢は、ＥＵとＮＡＴＯが対立しているように読めるので戸惑った受験生もいると思われる。	標準

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2025 年

＜学習対策＞

近年の出題は基本事項が中心になっている。したがって、教科書や用語集の重要事項を正確に押さえておくことが必要である。政治分野については日本国憲法に関する出題が中心となっているので、最高裁判所の判例も含めてこの分野の重要事項についてはきちんと押さえておこう。また、経済分野の問題については、丸暗記ではなく理解を踏まえた知識の整理が必要である。さらに、本学部では、時事問題も出題されるので、日頃から新聞やテレビのニュースについて興味を持ち、関連する知識を整理しておこう。なお、100 字から 200 字程度の論述問題が出題されるので、他学部や他大学で出題された論述問題を解くなどして、論述のポイントを押さえておこう。

© 河合塾　2025 年